

---

# 教育総合センター

## だより

---

NO. 137

平成 27. 9. 1



未来を生きる子どもたちに・・・

尼崎北小学校

校長 川見 孝男

初めて教壇に立ったのは昭和55年、今から35年前のことでした。学校の様子も今は随分違っていました。

今では当たり前のようにパソコンを使っていますが、当時はワープロさえなく、プリント類もボールペン原紙に手書きして、旧式の輪転機で印刷していました。昭和から平成の時代になると、ようやく先進的な学校でコンピューター活用の研究が行われるようになり、その後、各学校に徐々にコンピュータ室が整備されていきました。

今の子どもたちはコンピュータを自在に操作できるのは当たり前で、多くの小学生がスマートホンを所持するような時代になっています。つい最近では、人の感情を読み取り、身ぶり手ぶりを交えて会話をするというロボットが発売され、すぐに売り切れたというニュースが話題になりました。近い将来、学校の様々な教育活動にもロボットが登場するようなことになるでしょう。

私の教諭時代を思い起こすと、日々の雑務に追われ目先のことばかり気にして、未来を生き抜く子どもたちにどんな力をつけるべきか、ということを考えていなかったような気がします。なによりも、10年先の世の中を予想できていなかったと思います。

私が小学校に勤務した35年間の社会の移り変わりには目を見張るものがありますが、これから先の世の中はさらに急激なスピードで変化していくと思われまます。そして、その未来は決して希望に満ちているとは言えないようです。2050年には、日本の人口は約3000万人減少し、今のように裕福な国家ではなく、世界の中でも経済小国になっていると予測されています。そのような状況の下でも社会のグローバル化・高度情報化は、ますます進展していくでしょう。そういう時代に対応できる人間を育てていくことが、私たち教師の使命であると考えます。

例えば、小学校に教科として英語が導入されますが、仕事や教育、研究などの場面でもしっかりと英語が話せて、海外に出ても通用するような日本人を育てることもその一つでしょう。また、言われたことしかできない人間でなく、社会の状況に応じてどう生きるべきかを自分で考えて行動できる人間を育てていくことも重要な事です。

そして、いかに時代が変わろうと、人々との心のふれあいや人間としての温かさを大切にしていきたいと思ひます。

そんなことを想いながら、日々、元気な子どもたちと接しています。

## ☆☆☆ 今年度の特徴ある研修から ☆☆☆

今年度の教育総合センターの研修では、県の研修体系の再編や本市の研修の拡充に伴い、これまでの研修内容と大きく変わっています。特色ある内容の研修を5つご紹介します。

### (1) 1年目教員必修研修

「3年間で、授業で勝負できる教員の育成」を目指すスタートとなる1年目教員の研修。

今年度から3日少ない22日間の校外研修になりました。授業に関わる研修では、これまでの選択研修(ステップアップ研修)にかわり、同じ研修を3回ずつ設定し、少人数制やワーキングによるアクティブな研修が受けられるようにしています。また、ビデオを用いた研修及び各グループにおけるテーマ別公開授業をもとにした事後研修、中学校教員においては、1年次・2年次・3年次の同教科の教員で同日に研修が受けられるようグループ編成する等、内容的にも、さらに充実したものとなっています。

このように、少人数での実践・体験型の研修が多いため、1年目教員研修に要する開催日数は、従来より1.5倍増加しています。

その他、道徳研修、生徒指導研修、地域学習における研修等、尼崎への愛着や教員としての自覚を高め、様々な教育課題についての見識を深める実践的な指導力と使命感を養う研修を実施しています。2年次、3年次、5年次、10年次と次のキャリアステージにつながる教員の育成をめざして内容を精選しています。

### (2) 5年次・15年次相当研修

兵庫県が必修と定める5年、15年をむかえる教員の経年研修の受講が前倒しで受講できます。特に、今年度3年目の教員は、5年次研修を3年次研修とともに受講できます。当該年度に計画的に受講することも1つですが、5年次をむかえる年度に免許更新や一身上の都合と重なっている等、先を見越した研修の受け方をすることが可能です。また、15年次研修は10年経験者研修を履修後、受講が可能となります。

「学び続ける教師からは、学び続ける児童生徒が育つ」と言われます。この年次相当研修を

機会に、教員自身が研修を受ける意義を再確認し、計画的かつ主体的に研修を進め、職能成長を図っていく上でこの機会を有効に活用いただければと考えます。

### (3) 小学校における英語教育の教科化に向けての外国語活動研修

必ず受講しなければならない「基本研修」において、「英語教育の教科化に向けての外国語活動研修(全7回)」の必修研修の機会を3年間にわたり設けています。全7回の内、2回は理論研修で、これからの国の動向や方向性を学びます。残り5回は、実際に英語を使つての実践研修を行います。全ての教員が、理論と実践の2回分を受講することになります。今年度は、小学校全教員の1/3の教員が受講します。

Classroom English を使つての実践研修は、外国語活動の授業のイメージを持つ上でも効果的な実践力獲得研修となっています。

### (4) 教科研究会による公開授業の案内

小・中・特別支援学校における各教科研究会では、専門性を磨き、指導の充実と市内への更なる広がりを図ることをねらいとして、小学校各教科等研究会の公開授業や中学校全体教科研究会等を市内教職員向け公開しています。

### (5) シリーズ研修で強化

希望により受講する「専門研修」では、国語科や算数科において数回のシリーズ研修を用意し、意欲的な教員の参加を促しています。昨年度末に、国語科と算数科の指導力アップ実践研修講座の第1回目が開催されました。2回目は今年の6月、3回目が8月です。最終には、それぞれが指導案を作成して、公開授業をするという実践に直結する運びの研修です。今年度の受講申し込みは、すでに終了していますが、公開授業を参観いただくことは可能です。公開授業は、11月下旬の予定です。

これからも皆様からのご意見ご要望をいただきながら、更なる研修の充実を目指して参ります。

(研修担当係長 桑野光枝)

## ◇◇◇ 子どもの心を支え育てるために ◇◇◇

### はじめに

教育相談の窓口には、様々な悩みを抱えている子どもや保護者が来られます。相談内容は発達に関するもののほかに、不登校やいじめ、虐待、リストカットなど多種多様で複雑化しており、対応もますます難しくなっています。一方、子どもに関する事件や事故が新聞やテレビ等で報道されるたびに、胸を締め付けられるような思いがします。今こそ子どもの心のSOSを見逃さず、受け止めて支えることが強く求められています。

私自身が担任として子どもと接するなかで感じてきたことや実践したことが、子どもとのかかわり方のヒントになればとの思いで振り返ってみます。

### 気になる子どもにかかわるとき

クラスには、様々な個性を持った子どもたちがいます。どの子ども世界に一人だけのかげがえのない大切な存在です。気になる子どもに出会ったときには、その子をありのままに理解して暖かく接することが重要です。気になる子どもを「困った子ども」ではなく「困っている子ども」ととらえ、子どもの心の奥に関心を持ち、その子の立場で気持ち理解して共感的に支える姿勢が大切です。一人ひとりの子どもを正しく理解するためには、まず子どもの様子をよく観察しましょう。子どもの行動には必ず原因があります。何が問題になってそのような行動を引き起こしているのか、その背景をつかむことで見えてくることがあります。愛情を持って子どもを見つめ、子どもの気持ちをくみ取って肯定的に接することが子どもとかわるための基本となります。

### 心のサインに気が付いていますか

心は目には見えません。また、自分の悩みや困り感を言葉で表現できない子どもたちもいます。だからこそ日頃から児童生徒をよく観察し、友だち関係や家庭状況など多くの情報を得ておくことが必要です。子どもの小さな変化に気付き、深刻な状況になる前に適切に対応することが大切です。心理学では、人の心理は行動に表出されるという考え方があります。子どもの身体や行動に表れるサインを見逃さないように、心のアンテナを常に高くしておきましょう。たとえば、「元気なあいさつをしなくなった」「休み時間など、一人でぼつんと教室に残っている」「授業にのってこない」「頻

繁に体調不良を訴える。保健室に行きたがる」「イライラして不機嫌な態度をとる」などの子どもからのサインを感じたら、ありがちなことと見過ごさずにまずは行動してみましょう。子どもからの訴えを待つのではなく、「どうしたの?」「何かあった?」と声をかけ、一歩踏み出して子どもとの関係を作ることが大切です。

### じっくりと話を聴いてみましょう

声をかけても、すぐには教員とのかかわりを求めようとしない場合もあります。子どもが関心を持っている話題について話すなど小さいかかわりを持つことから始め、いつでも相談できる雰囲気作りをしましょう。「あなたを支えたいと思っている」「あなたの味方だよ」というメッセージを伝えながらあせらずに待つ姿勢を持ちましょう。

子どもが話を始めたら、じっくりと話を聴きます。「聴く」とは聴こうと努力すること、積極的に耳を傾けて熱心に聴くことです。しかし、これは案外難しいことです。「聴いている」つもりでも、気がつくと自分が話し手になっていて「聴けていない」こともよくあります。

「聴く」ためのポイントとしては、①話しやすい雰囲気作りをする。②先入観をもたずに聴き、まるごと受け入れる。③話し方や、声の大きさ、表情などの話し手の非言語的なコミュニケーションに気をつける。④相手の発言を待ち、質問は控えめにする。⑤一緒に考えていく姿勢を持つ。などがあります。

### 一人で悩まないで

問題を一人で抱えこまずに、まず校内で他の教員と協力して子どもにかかわっていきましょう。スクールカウンセラーなどの専門的な意見も生かして、早期にいろいろな視点から考えることで早期の解決につなげることができます。必要な場合は、相談機関や福祉、時には医療などの関連機関との連携をしていくことも重要です。

### おわりに

教育相談担当では、身近で気軽に相談できる環境を提供することで、子ども自身の成長を促し、保護者の孤立感を軽減するなど、子ども・家庭・学校への支援につながるよう努めております。これからも子どもの心を支え育てるために、学校との連携をさらに深めてまいります。

(教育相談担当係長 岡本 薫)

## 教育情報コーナーへどうぞ

教育情報コーナーでは、先生方に利用していただきたい本や資料、雑誌等を整備しています。教育総合センターでの研修や会議の時など、ぜひお気軽にお立ち寄りください。（情報コーナー担当・幾田）

\* <幼保連携型認定こども園> <幼小接続>。幼児教育は変化の時期。

『認定こども園の時代～子どもの未来のための新制度理解とこれからの戦略』

無藤 隆・北野幸子他著／ひかりのくに

『保幼小連携～育ちあうコミュニティづくりの挑戦』 秋田喜代美・第一日野グループ編著／ぎょうせい

『幼児教育へのいざない～円熟した保育者になるために』

佐伯 胖著／東京大学出版会

『保育者が知っておきたい発達が目になる子の感覚統合』

木村 順著／学研教育出版

\* 「特別の教科 道徳」が始まります。道徳授業改善のチャンスです。

『道徳の時代をつくる！～道徳教科化への始動』

押谷由夫・柳沼良太編著／教育出版

『小学校・中学校こうすれば』道徳指導案が必ず書ける』

谷合明雄・津田知充他著／教育開発研究所

『モラルジレンマ教材とする白熱討論の道徳授業～小学校』

『モラルジレンマ教材とする白熱討論の道徳授業～中学校・高等学校』 道徳性発達研究会著／明治図書

\* 小学校外国語活動の授業に、とまどいや悩みはありませんか？ご参考に。

『小学校外国語活動の基本のき』

酒井英樹著／大修館書店

『小学校外国語活動イラストで見る全単元・全時間のすべて 5年・6年』 直山木綿子著／東洋館出版社

『改訂小中連携Q&Aと実践～小学校外国語活動と中学校英語をつなぐ40のヒント』

萬谷隆一他著／開隆堂

## 視聴覚ライブラリー、利用の仕方

1 視聴覚ライブラリーの教材・教具の貸し出しは、電話等で予約ができます。

・教材・教具の種類 ・貸出期間 ・申込者の名前・連絡方法 などをお知らせください。

「予約受付票」を作成し、後日「貸出申込書」に記入していただきます。

2 貸し出し（原則 4日間 教材は4本まで）

① 教育総合センター3階受付においで下さい。

② 教材・教具の確認をします。（フィルムライブラリー（4階）に行き確認します）

③ 教材・教具と「利用報告書」を受け取ります。

3 返却

3階受付かフィルムライブラリー（4階）で返却してください。

・「利用報告書」に必要事項を記入し、教材・教具と一緒に返却してください。

・教材・教具については、貸し出し時の状態で返却してください。

4 その他

教材・教具については、来館いただいで直接確認できます。ぜひ、ご利用下さい。

（視聴覚ライブラリー担当 上玉利）